

過去の『鳥城』（年1回発行される学校の刊行物）を見ると、昭和25年に「倉吉応援記」という文章が掲載されている。高校野球岡山県予選大会のために数人を中心に結成した応援団が、県予選で優勝したので倉吉まで応援に行ったという話だが、その後昭和50年代初期まで応援団についての記述はほとんどない。

定期的な市内普通科高校の対校戦（操朝戦）が始まっていつ頃からか、入学したての1年生のクラスから何名かを徴集し、対校戦が終ると1年生の応援団活動は終了。その中の何人かが2年生でも活動。1年生への指導は、2・3年生や補習科の先輩がおこなった。

応援団が輝いた「四校戦」となって以降、『鳥城』にも応援団としての活動報告がされるようになり、先輩から大団旗も寄贈された（写真）。

そして、ようやく平成5年、『学校要覧』に「応援団」が委員会・運動部・文化部と並んで記載されるようになった。実は「応援団員」が居なくなっている現在もこの「位置づけ」は踏襲されている（図）。

平成元年・6年・7年と夏の高校野球地区大会で「応援最優

秀賞」に選ばれたこともある朝日応援団であるが、結局のところ、その存在が強く印象に残っている年代は昭和50年台から平成10年台前半くらいまでの20年余りに限られるようである。



昭和35年操朝戦（※1）

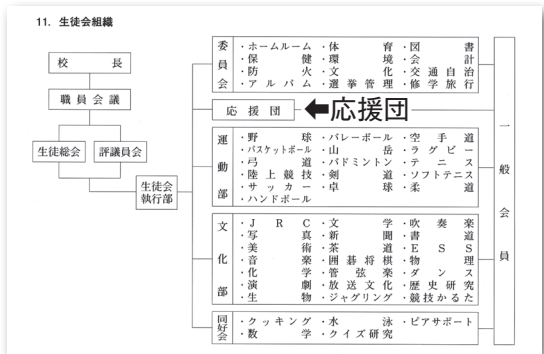


昭和44年三校戦校旗入場（※2）



昭和50年四校戦応援（※1）

※1:名簿42号特集記事より  
※2:写真で見る140年より



令和5年度生徒会組織



大団旗  
140周年ホームカミングデイ オープニング  
応援団OBによるエール



応援団のバッジ  
昭和50年代の制作か。



応援団の腕章  
昭和50年代の制作か。

## 岡山中学の址

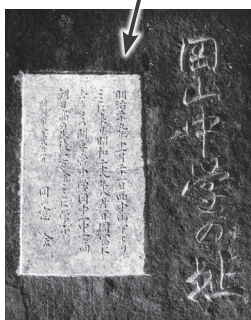
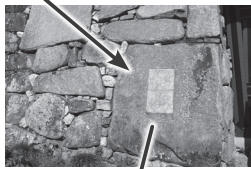
岡山城本丸「不明門（あかずのもの）」の石垣に「岡山中学の址」の文字が刻されているのをご存じだろうか。この文字の経緯については、第31号名簿（昭和28年発行）冒頭の会長挨拶において次のように紹介されている。

「（前略）、母校も去る八月一日を以て鳥城址から国富の旧六高址へ全面的に移転しました。そこで理事会の決議により次のような文字を鳥城址の石垣に刻んで、せめてもの惜別の情を留めることにしました。題字は理事長の原澄治先生に揮毫して頂きました。」



岡山城本丸「不明門」

ここ



昭和29年卒業アルバムより

岡山中学の址  
明治二十九年十一月二十一日西中山下よりここに來り昭和二十八年八月一日国富に去るその間尋常中学岡中一中一高  
朝日高の生徒一万余ここに学び  
昭和二十八年八月一日 同窓会

それから70年、文字も風化で読み取り難くなっているため、150周年記念事業の一環として図のような説明板を設置（※）する計画です。（事業計画については会報5頁をご覧ください）

※現在の岡山城跡は国の史跡となっており、その一部である石垣への加工は禁止されている



計画されている説明板（案の一つ）